

日本ソーシャルスキル協会 東北支援サークル活動報告



vol.2

2011年9月5日発行

8月28日、29日、30日と石巻へ行ってまいりました。

震災関連ニュースはさほど放送されなくなりましたが、実際の景色をみると圧倒されます。

日和山公園から津波にのまれた現場が一望できる場所、多くの犠牲者が出たところ。報道で耳にした悲惨な現場は、道には瓦礫こそありませんが異様な景色です。



石巻市の被害状況

(宮城県石巻市ウェブサイトより)

死者数：3,136名、行方不明者数：739名、避難者数：1,868名、避難所数：59か所、住宅・建物被害：22,419件（全壊数＋半壊数）（8月31日現在）

8月28日は石巻被災地の状況を理解するために、石巻での窓口をお願いしている和田ご夫妻に案内していただき、見てまいりました。

地震と同時に津波の威力で破壊され、引き波は多くの大切な人の「命」といつもあった「日常」を…。コツコツ積み重ねてきたもの全てを…。本当に信じられないことばかりです。

「なにか夢かと思ってしまうようだ」という和田さんの言葉は、瓦礫が撤去されたからこそ見えてきた現実を今、受け止めてるかのよう感じました。

日本ソーシャルスキル協会 石巻・中里出張所では、宮崎、鹿児島、長崎、愛知、岐阜、長野、大阪、京都、埼玉、三重、東京、栃木、群馬、新潟、山形、秋田、福島県と活動が繋がり、これまでに100件近くの支援物資の荷物が届いてると報告を受けています。



それらは石巻中里、長面、東中里、中屋敷、裏屋敷、渡波、開北、泉町、女川などの方々にお持ち帰りいただきました。子どもの絵本や祭りの呼びかけに対して多数集まった物資は、石巻河南地区の子育て支援サークルの他に、保育園や小学校、ピアノ教室や床屋さんへ提供いたしました。

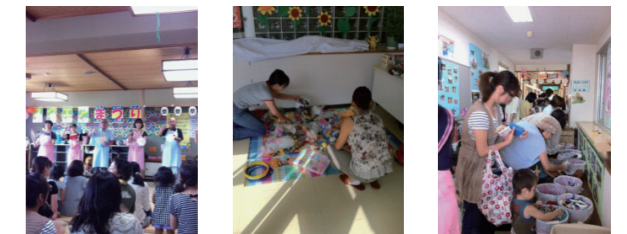
8月29日は健康チェックと個別カウンセリング。傾聴研修会（2時間）をおこなないました。

震災直後は一瞬に変わり果てた街並みに呆然とし、数週間で「負けない！頑張る」と気持ちを奮い立たせながら踏ん張ってきました。そして今、様々な現実を目の前にしても、見通しのつかない出来事が多すぎて無気力になりつつある方もいました。そこで血压測定をしながらお話を伺うスタイルで対応いたしました。

研修会では、壮絶な体験やさまざまな事情を抱えつつも自分の事は二の次に介護活動をするリーダー、スキンケアアド

バイザーのリーダーの方々、計17名が参加しました。

ご自身も被災者でありながら立場上言えないと我慢するうちに、対象者に合わせて話が聴くことができない。答えることができない。そんな自分は冷たい人間だ、おかしい人間だのご自身を責める傾向にありました。そこで「今、思っていること」をグループに分かれ自由に話してもらいました。「私たちが話したかったんだ」「話すだけで軽くなった」と皆さん自分の気持ちに気づかれたようです。



8月30日は、石巻河南地区の子育て支援サークル活動のスクエア夏祭りに参加しました。健康相談と支援物資を使った輪投げを担当し、114名の親子の方とレクリエーションを楽しみました。

健康相談で血压が低い方の話を伺うと、症状があっても放置する方が多く「自分の健康の事などすっかり忘れてた。これを機会に検診受けてみます」と話されました。自分の事は二の次で子育てに一生懸命なお母さんも少しは気分転換と息抜きが必要です。私たちの活動は全体から見れば小さな事かもしれませんが、少しずつ笑顔になれるように、地元の方の声に耳を傾け、今後も皆様の協力をいただきながら活動をして参りますのでご協力をよろしくお願いいたします。（猪俣）